

## ヘブル人への手紙 2章 5-13節 イエスは、はるかにすばらしい兄弟

私たちには皆、どこかしらに家族がいます。家族は、太古の昔から、社会と社会構造の礎であり続けてきました。神が創造の週の最後に成し遂げられたのは、二人の人間を創造することでした。しかし、それは単なる二人の人間ではなく、男と女、すなわち夫と妻でした。そして神は、創世記 1章 28節で、この夫と妻であるアダムとエバにこう告げられました。**生めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ**、この言葉から、男女が生まれ、彼らは人生の自然な流れとして結婚し、子供をもうけ、その子供たちがまたそれぞれの家族を築き、やがて人類が地を満たすに至りました。そして、私たちの生活やこの世に存在する罪によって、結婚や家族を含む人間関係が傷つき、壊れてしまっているにもかかわらず、結婚と家族は、人間の失敗の姿ではなく、神がこの世に対して抱く愛の姿を今なお映し出し続けているのです。

エペソ人への手紙第5章では、夫たちはこう命じられています。25 **キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい**。そして妻たちも同じように夫に従うようにと告げられています。24 **教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい**。つまり、私たちの家族関係は福音を映し出しているのです。そして、これは神ご自身の家族関係から始まりました。永遠の昔から、神は三位一体として、ご自身との家族関係の中に常に存在しておられました。父、子、聖霊は、完全に満たされた永遠の家族のような関係の中で、共に完全な交わりと調和を分かち合っておられます。そして、そのウチの家族関係の中に、神は人間を創造し、神と共に存在させ、私たちの家族が神の永遠のウチの家族の一員となるようにされたのです。もちろん、最初の人類は、家族の長である父なる神が定めた家族の掟を守ることができず、神に対して罪を犯してしまいました。その結果、私たちは神の家族からソトへ追放され、罪に対する神の怒りと裁きの下に置かれることになったのです。

しかし、私たちは皆、受け入れられ、愛され、大切にされ、そして居場所がある家族の一員になりたいと切に願っています。イエス・キリストは、神のウチ、すなわち神の家族の中で、私たちにそのような家族関係を授けてくださいます。これは、ヘブライ人への手紙の次の箇所、ヘブライ人への手紙 2章 5節から 13節を読むとわかることです。イエス様は私たちの兄弟として描かれています。そして、兄弟がいるということは、私たちが家族の一員であることを意味します。それは、より素晴らしい家族、すなわち神の家族であり、より素晴らしい兄弟、イエス様がいらっしゃる家族です。今日はヘブル人への手紙 2章 5節から 13節を読み、イエス様がどのようにして、より素晴らしい家族の中で、より素晴らしい兄弟となられるのかを見ていきましょう。

ヘブル人への手紙 2章 5~8節から読みましょう。

**というのも、神は、私たちが語っている来たるべき世を、御使いたちに従わせたのではないからです。6ある箇所で、ある人がこう証ししています。「人とは何ものなのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたがこれを顧みてくださるとは。7あなたは、人を御使いよりわずかの間低いものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせ、8万物を彼の足の下に置かれました。」**神は、万物を人の下に置かれたとき、彼に従わないものを何も残されませんでした。それなのに、今なお私たちは、すべてのものが人の下に置かれているのを見てはいません。文脈からはすぐには明らかではないかもしれませんが、5~8節が指し示している真実はこうです。イエス様が私たちの兄弟となることは、まずイエス様が人間であることから始まります。しかし、これらの節はどのようにしてイエス様の人間性を示しているのでしょうか。筆者は、依然として天使という文脈を取り上げています。天使たちには、被造物に対する最終的な支配権は与えられていません。その栄誉はイエス様に属していますが、それはイエス様の人間性と結びついて与えられたものです。これらの節では、再び旧約聖書の引用が用いられています。イエス様の人間性は、まさにこれらの節の文脈の中で明らかになるのです。6~8節は、実際には詩篇 8篇 4~6節を引用しているのです。詩篇 8篇 4~6節 **4人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。5あなたは人を御使いよりわずかに欠けがあるものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせてくださいました。6あなたの御手のわざを人に治めさせ、万物を彼の足の下に置かれました。**詩篇第8篇から明らかのように、ここで言及されている最初の人たちとは、人間全般を指していました。ダビデ王であると伝えられている詩篇作者は、詩篇第8篇の第3節から次のように述べています。**あなたの指のわざであるあなたの天、あなたが整えられた月や星を見るに、4人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。**つまり、こ

れは人間が被造物として、神の計り知れない偉大さと、人間としての自分の小ささを前にして、**人とは何もののなのでしょう。あなたが心に留められるとは。**と問いかけていることが明らかです。しかし、ここへブライ人への手紙では、全能の神と比較した際の間人であるとはどういうことかというこれらの箇所が、イエス様に当てはめられています。その意味は、単に人間についてであることから、一人の人、**人の子**、すなわちイエス様についてであることへと移行します。そこには、人は神のかたちに造られており、たとえ罪深い状態にあっても、神の栄光と尊厳を示していると記されています。へブル人への手紙は、イエス様ご自身が神であることをすでに明らかにしています。

へブル人への手紙 1 章 3 節 **御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり**、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。彼は神の栄光を不完全な形で現わしているのではなく、神の栄光を完全に現しているのです。ただ、その栄光は人間の姿をとっていたのです。私たちが人間の家族の一員となるためには、人間性が必要です。そして、私たちが神の家族の一員となるためには、イエス様が人間にならなければなりません。聖書は、まさにこのようなことが起こったと伝えています。**ピリピ人への手紙 2 章 7~10 節ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。**へブル人への手紙の筆者が、詩篇の作者のことばを引用して**あなたは、彼をしばらくの間、天使たちより低くされた**と述べているのは、まさにこのことです。もちろん、へブル人への手紙における引用は、その表現が若干異なります。筆者は、イエス様が天使たちより低い存在であると述べていますが、それは**しばらくの間**だけのことだとしています。しかし、ピリピの信徒への手紙は、第 2 章 9 節から 10 節へと続いています。**9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。10 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが膝をかがめ、**

これはへブル人への手紙 2 章 8 節が述べていることでもあります。**8 万物を彼の足の下に置かれました。**すべてのものを彼に服従させたということは、彼の支配の外に何も残さなかったということです。つまり、イエス様が人間にならなければならなかったという点が示されており、後ほど見ていくように、その人間性こそが死をもたらすことになるのです。しかし、それで終わりではありません。なぜなら、イエス様は死んだままでおられるのではなく、支配しておられるからです。この点も、へブル人への手紙 1 章 3 節で既に明確にされています。**人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。**しかし、私たち皆が周りを見渡せば、少なくともニュースを見る限り、この世においてイエス様が王座におられるようには、多くの場合思えないでしょう。へブル人への手紙の筆者は、8 節の最後の言葉において、**今なお私たちは、すべてのものが人の下に置かれているのを見てはいません。**と認めています。事実、イエス様は今まさに王座におられ、この世で神の摂理によらないことは何も起きていません。数週間前に米国とイスラエルがイランを攻撃したことも、神にとっては驚くべきことではありませんでした。ある意味で、神はそのことをご自身の摂理の下で定められたのです。起こるすべての死は、単に罪の結果ではなく、神の権威の下にあります。もっとも、原因が何であれ、人々間の敵意は、その根源において人間の罪の結果であることは確かです。しかし、私たちには目にするものに対する神の視点がないため、人間の罪によって引き起こされた死、怒り、恐怖、そして戦争を目の当たりにします。そして、この世界が神の支配下にあるのかどうか、疑い始めます。しかし、私たちには目に見えるもの、あるいは少なくとも確かなことが一つあります。それは、すでに成し遂げられたイエス・キリストの犠牲です。私たちは彼のこの世での統治を目にすることはないかもしれませんが、過去を振り返り、その犠牲を確信することができます。読み進めていくと、9 節から 11 節にそのことが記されています。**9 ただ、御使いよりもわずかの間低くされた方、すなわちイエスのことは見ています。イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。10 多くの子たちを栄光に導くために、彼らの救いの創始者を多くの苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の存在の目的であり、また原因でもある神に、ふさわしいことであったのです。11 聖とする方も、聖とされる者たちも、みな一人の方から出ています。それゆえ、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず、こう言われます。**これらの聖句は、なぜイエス様が私たちの兄弟となるために人間にならなければならなかったのかを教えています。それは、イエス様が私たちの兄弟となるには、その犠牲が必要だったからです。奇妙な展開ですが、人間というレベル

にまで自らを低くし、さらには過酷な人間の死さえも受け入れたことこそが、イエス様の究極の高揚へとつながったのです。この苦しみは、どうしてイエス様を完全なものにしたのでしょうか？イエス様は神であり、つまり、すでに完全だったのです！神として、イエス様がこれ以上栄光に満ちたり、聖なる存在になったりすることはあり得ません。しかし、イエス様が死ぬまでは、永遠の昔から準備されていた御業は完了しておらず、完全ではなかったのです。永遠の昔から準備されていた御業とは、救いの御業でした。それは、神が御自身のための息子や娘たちを贖うこと、すなわちここにあるように**多くの子たちを栄光に導くために**でした。神はご自身の家族を広げたいと願っておられます。神はより多くの子たちを望んでおられ、その子たちには息子も娘も含まれています。そして、それを可能にするのが、イエス様の犠牲なのです。しかし、イエス様の死によって、どうして私たちが神の息子や娘となり、イエス様の兄弟姉妹となることができるのでしょうか。その答えは、9節にある**神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです**という言葉にあります。私たちの罪は、私たちが創造主である神から引き離しました。その罪に対する罰は、肉体の死の後に訪れる永遠の死なのです。**ローマ人への手紙 6章 23節 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。**

イエス様は、私たちが受けるべき死を代わりに受けられました。イエス様は、私たちの罪に対する罰を支払ってくださいました。しかし、さらに重要なことは、イエス様が私たちの代わりに死なれたとき、私たちの罪を自ら引き受け、私たちの罪の贖い、すなわち償いをしてくださったということです。この聖句にあるように、それは**すべての人のため**でした。イエスご自身が神でした。イエスには罪がありませんでしたが、それゆえに、イエスこそが私たちの罪のための唯一の完全ないけにえとなられたのです。イエスは、**神の恵みの究極の現れ**でした。恵みとは、罪のために神の怒りと罰を受けるに値する罪人に対して、神が示してくださる、私たちが受けるに値しない贈り物、あるいは慈しみです。

ローマ人への手紙 6章 23節によると、その賜物は永遠の死ではなく、**永遠のいのち**です。しかし、私たちは罪人であるのに、どうしてその賜物が私たちのものとなるのでしょうか。それは、聖化、すなわち聖なる者とされること、を通して私たちのものとなるのです。それが、イエス様の死によってもたらされるものです。イエス様は私たちの罪を自ら負い、私たちにはイエス様の義、すなわち罪のない状態が与えられます。言い換えれば、私たちはイエス様を通して聖なる者とされ、聖別されるのです。私たちの救いとキリストの従順は、同じ源、すなわち神に由来しています。私たちの救いは、初めから終わりまで、イエス・キリストを通してなされる神の御業なのです。そして、その神の御業は、神の家族を広げるためのものであり、多くの息子たち、そして娘たちを栄光へと導くためなのです！私たちは、兄弟であるイエス・キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神の家族に迎え入れられるという、この素晴らしい恵みを授かっているのです！そして、この箇所は、その家族について言及することで締めくくられています。イエスが私たちの兄弟となられたことは、家族としての祝福をもたらします。11節の終わりから13節までを見てください。**イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず、こう言われます。12 わたしは、あなたの御名を兄弟たちに語り告げ、会衆の中であなたを賛美しよう。」13 また、「わたしはこの方に信頼を置く」と言い、さらに、「見よ。わたしと、神がわたしに下さった子たち」と言われます。**

この地上では、罪が私たちの家族やその家族の一員たちに影響を及ぼしているため、私たちは必ずしも自分の家族を誇りに思えるとは限りません。そして、私たちの罪を考えると、神様が私たちを、できれば避けたいと思うような家族の一員のように扱われたとしても、それは全て受け入れざるを得ないことでしょう。しかし、イエス様はそれとは正反対の反応を示されたと教えられています。**イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず、**イエス様は、私たちとの関係を誇りに思っておられるのです！これは、生まれながらに強制された、不本意な関係ではありません。これは、私たちが神の子とするという神の選択に基づく、愛に満ちた関係なのです。**エペソ人への手紙 1章 4~5節**がこの真理を教えてください。**すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。5 神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ決めておられました。**私たちが神に選ばれ、神の子とされたという事実は、神の私たちへの愛を示す、計り知れない祝福です。自分の子を愛さない親など、私には想像しがたいことです。しかし、養子を迎える親

にとっては、ある意味、それ以上の愛と言えるでしょう。養親は、その子の責任を引き受ける必要はなかったのです。他の子を選ぶこともできたのに、あえてその子を選んだのです。それこそが、私たちに對する神の愛の姿なのです。もしあなたが自分の罪を悔い改め、救いを得るためにイエス・キリストを信じたなら、あなたは神によって養子として選ばれたのです。あなたが愛されるに値しない者であったときでさえ、神はあなたを愛しておられました。あなたが聖別される前から、神はあなたを御自分の息子、あるいは娘として選ばれたのです。神は、イエス様の血があなたの罪を覆うことを定められました。今、イエス様は誇りを持って私たちに兄弟姉妹と呼び、家族の祝いの席に招いてくださっています。それは、12節と13節で彼が引用している3つの言葉からも見て取れます。一つ目は詩篇22篇22節からの引用です。詩篇22篇はイエス様に関する預言的な詩篇であり、冒頭では、イエス様が父なる神に助けを求めて叫ぶ、その死に焦点を当てています。22節では、助けが与えられ、勝利が成し遂げられています。これは、イエス様の死と復活によって罪に対する勝利が成し遂げられたことに、明らかに当てはまります。しかし、注目すべきは、イエス様が神の御名を賛美する際に、一人ではないということです。イエス様は、救いを成し遂げてくださった神へのこの賛美の祝いの場に、兄弟たちを共に連れて来ているのです。私たちは、イエス様の勝利の中に含まれており、その勝利は私たちの勝利となったのです。彼は再びイザヤ書8章17-18節を引用し、17節から **13** **また、「わたしはこの方に信頼を置く」と言い、さらに18節から、「見よ。わたしと、神がわたしに下さった子たち」と言われます。イザヤ書8章17~18節 私は主を待ち望む。ヤコブの家から御顔を隠しておられる方を。私はこの方に望みを置く。18見よ。私と、主が私に下さった子たちは、シオンの山に住む万軍の主からのイスラエルでのしるしとなり、また不思議となっている。**イザヤ書の文脈において、これはイザヤの子らが、神の祝福がイスラエルに臨むことをイスラエルの民に証ししていることを意味しています。ヘブライ人への手紙において、筆者はこの箇所を用いて、イエス様がイザヤと同じように父なる神を信頼していたと述べています。イエス様は死という最大の試練に直面したにもかかわらず、神がご自身を救い出してくださることを知っておられたのです。イエス様は死と墓に打ち勝たれたのです！神の御子として、イエス様は父なる神を信頼し、勝利を得られました。そして、その御業によって、私たちもその勝利の祝宴に加わることができるのです。

イエス・キリストを知っているなら、私たちには新しい家族があります。長兄であるイエス・キリストと共に、新しい兄弟姉妹が与えられています。イエス様において、かつて神の家族のソトにいた私たちは、**ウチ**へと招かれ、神の家族の一員とされました。私たちの**家名**こそが、私たちが何者であるかを定義するものです。私たちには神の御名が付けられています。私たちは、兄弟であり救い主であるイエス・キリストを、この世に代表して示す存在なのです。私たちは、この世に対して、どれほど彼をしっかりと代表できているのでしょうか。私たちはその名を恥じているのでしょうか。それとも、私たちの兄弟であるイエス様について、大胆に人々に語っているのでしょうか。イエス様は私たちを恥じておられません。それなのに、私たちはイエス様を恥じているのでしょうか。私たちが救い、この新しい家族に迎え入れてくださったのは、十字架上のイエス様の御業であり、それが私たちを定義するものです。ですから、毎週教会として集まる時、私たちはキリストにある兄弟姉妹として集まるのです。私たちは血の絆、イエス様の血によって結ばれているのです。

私たちは、主の晩餐を通して、その流された血を記念します。もしあなたが、罪を悔い改め、キリストを信じ、そして洗礼を受けるという従順を示したキリストの弟子であるなら、今日、この食事にぜひご参加ください。YIBCの会員でない方の参加も歓迎しますが、この食事は、私たちが会員として参加すべき地域のキリストの体と私たちをつなぐものです。親御さんの皆様にとって、この聖餐の重要性を子供たちに示す最善の方法は、子供たちがその準備ができていない間は参加させないことです。私が祈りを献げた後、執事たちが礼拝堂の四隅からパンと杯を配り、その後、私たちは共にパンと杯を分かち合います。祈りましょう。

## Hebrews 2:5-13 Jesus is the better brother イエスは、はるかにすぐれた兄弟

All of us come from families. Family is and has been the building block of society and social structure from the very beginning of time. God's final act of the creation week was to create two humans. But not just two random humans – a man and woman, a husband and a wife. And he tells this husband and wife, Adam and Eve in Genesis 1:28, "Be fruitful and multiply and fill the earth and subdue it..." From those words came men and women who would as a normal course of life get married, have children who would then form their own families until humans filled the earth. And even though our relationships including our marriages and our families are scarred and broken by the presence of sin in our lives and in our world, marriage and family continues to reflect not a human picture of failure, but a picture of God's love for his world. So husbands are told in Ephesians 5 to "love your wives, as Christ loved the church" [v.25] and wives are told to submit to their husbands because "as the church submits to Christ, so also wives should submit in everything to their husbands." [v.24] So our family relationships pictures the gospel. And this started with God's very own family relationships. From eternity past, God has always existed in a family relationship with himself as a trinity. Father, Son and Spirit who together share perfect fellowship and harmony in a completely fulfilling eternal family type of relationship. And into that UCHI family relationship, God created humans to exist with him and for our families to be a part of his eternal UCHI, family. Of course the first humans failed to keep the family rules determined by God the Father, the head of the family and sinned against him. This pushed us outside of God's family and under his wrath and judgment for our sin. But we all have a longing to be part of a family where we are accepted, loved, cared for and belong. Jesus Christ offers us that family relationship in God's UCHI, his family. This is what we see when we come to the next passage in the book of Hebrews, Hebrews 2:5-13. Jesus is described as our brother. And to have a brother means we are part of a family. It is a better family, its God's family, with a better brother, Jesus. Let's read Hebrews 2:5-13 today and see how Jesus becomes a better brother in a better family.

Let's start by reading verses 5-8. **5 For it was not to angels that God subjected the world to come, of which we are speaking. 6 It has been testified somewhere, "What is man, that you are mindful of him, or the son of man, that you care for him? 7 You made him for a little while lower than the angels; you have crowned him with glory and honor, 8 putting everything in subjection under his feet."** Now in putting everything in subjection to him, he left nothing outside his control. At present, we do not yet see everything in subjection to him. It might not be immediately evident in the context, but the truth that verses 5-8 are pointing to is this. **Jesus becoming our brother begins with him being human.** But how do these verses point to the humanity of Jesus? The writer picks up still in the context of angels. Angels have not been given the final rule over creation. That honor belongs to Jesus, but it comes connected to his humanity. We are once again looking at an Old Testament quotation in these verses. It is in the context of these verses that we see the humanity of Jesus. Verses 6-8 are actually quoting **Psalm 8:4-6**, which says, **what is man that you are mindful of him, and the son of man that you care for him? 5 Yet you have made him a little lower than the heavenly beings and crowned him with glory and honor. 6 You have given him dominion over the works of your hands; you have put all things under his feet...** It is clear from Psalm 8 the original ones being talked about here were humans in general.

The writer, who we are told is King David says starting in [verse 3 of Psalm 8](#), [When I look at your heavens, the work of your fingers, the moon and the stars, which you have set in place,](#) <sup>4</sup>[what is man that you are mindful of him, and the son of man that you care for him?](#) That makes it clear that this is a human seeing creation and saying why do you care about me as a human in light of your immenseness as God and my “smallness” as a human being. But now here in Hebrews these verses about what it means to be human in comparison to the all powerful God are applied to Jesus. The meaning shifts from simply being about humans to being about one human – Jesus. It says humans are created in the image of God, which even in our sinful state shows God’s glory and honor. Hebrews has already made clear that Jesus is himself God. [He is the radiance of the glory of God and the exact imprint of his nature](#), according to [Hebrews 1:3](#). He is not an imperfect representation that shows God’s glory, he perfectly shows God’s glory, but that glory was in human form. In order for us to be part of a human family, it requires humanity. And for us to be part of God’s family, Jesus had to become human.

This is what the Scripture tells us happened. [Philippians 2:7-10](#) says, [but \[Jesus\] emptied himself, by taking the form of a servant, being born in the likeness of men. 8 And being found in human form, he humbled himself by becoming obedient to the point of death, even death on a cross.](#) This is what the writer of Hebrews is saying when he quotes the Psalmist, [You made him for a little while lower than the angels.](#) Of course, the quote is slightly different in the way Hebrews uses it. He says Jesus is lower than the angels, but only for a little while. But Philippians continues with chapter 2, verses 9-10. [9 Therefore God has highly exalted him and bestowed on him the name that is above every name, 10 so that at the name of Jesus every knee should bow, in heaven and on earth and under the earth...](#) This is also what Hebrews 2:8 is saying, [8 putting everything in subjection under his feet.” Now in putting everything in subjection to him, he left nothing outside his control.](#) So, the point is made that Jesus had to become human, and as we will see in a minute, that humanity would bring death. But that is not the end, because Jesus is not dead- he rules. That has also been made clear earlier in [Hebrews 1:3](#) again. [After making purification for sins, he sat down at the right hand of the Majesty on high...](#) But all of us can look around and see that in this world, at least based on the news, that it doesn’t seem many times like Jesus is on the throne. The writer of Hebrews acknowledges that in his final statement of verse 8, [At present, we do not yet see everything in subjection to him.](#) The fact is that Jesus is presently on the throne and nothing is happening apart from God’s providence in this world. It was no surprise to God that the US and Israel attacked Iran a few weeks ago. In some way, he ordained that under his providence. Every single death that happens is under his authority and not simply the result of sin. Although, to be sure, hostility between people no matter the cause is at it’s a core of result of human sin. But we do not have God’s perspective on what we see, so we see human death, anger, fear and war caused by human sin. And we can begin to doubt that this world is under God’s control.

But there is something we can see, or at least know is certain. And that is Jesus Christ’s sacrifice that has already happened. We may not see his physical reign, but we can look back and know his sacrifice. We see this in verses 9-11 as we continue reading. [9 But we see him who for a little while was made lower than the angels, namely Jesus, crowned with glory and honor because of the suffering of death, so that by the grace of God he might taste death for everyone.10 For it was fitting that he, for whom and by whom all things exist, in bringing many sons to glory, should make the founder of](#)

their salvation perfect through suffering. 11 For he who sanctifies and those who are sanctified all have one source. These verses tell us why Jesus had to become human to be our brother. It was because **Jesus becoming our brother required his sacrifice**. In a strange twist, it is this lowering of himself to the level of a human and even a severe human death, that leads to Jesus's ultimate exaltation. How did this suffering make Jesus perfect? He was God, in other words, already perfect! As God he can't become more glorious or holy. But until he died, the work that he had been preparing for from eternity was not complete – it was not perfect. The work that had been prepared from eternity was the work of salvation. It was God redeeming sons and daughters for himself – **“bringing many sons to glory”** as it says here. God wants to expand his family. He wants more sons and that sons includes daughters as well. And it is Jesus's sacrifice makes that possible.

But how does Jesus's death make it possible for us to become sons and daughters of God and a brother or sister to Jesus. It is in that phrase in verse 9, **so that by the grace of God he might taste death for everyone**. Our sin separated us from God our creator. The punishment for that sin is eternal death following physical death. **Romans 6:23 says, 23 For the wages of sin is death, but the free gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord**. Jesus took the death we deserved. He paid the punishment for our sin. But even more important, he took our sin on himself when he died in our place, so that he could make atonement, or payment for our sin. It was **“for everyone”** else as this verse says. Jesus himself was God. He had no sin, but that made him the only perfect sacrifice for our sin. He was the ultimate display of the **grace of God**. Grace is God's undeserved gift or kindness that he shows towards sinners who deserve his wrath and punishment for their sin. That gift according to Romans 6:23 is **eternal life** rather than eternal death. But how does that gift become ours, since we are sinners. It becomes ours through sanctification – being made holy. That's what Jesus's death provides. He took our sin on himself and we are given his righteousness, his lack of sin. In other words we are made holy – sanctified, through Jesus. Our salvation and Christ's obedience have the same source – God. Our salvation from start to finish is a work of God through Jesus Christ. And that work of God is for the purpose of enlarging his family. **Bringing many sons** [and daughters] **to glory!** We are given the beautiful gift of being adopted into the family of God through our brother, Jesus Christ's death on our behalf!

And this passage ends by pointing to that family. **Jesus becoming our brother brings the blessing of family**. Look at the end of verse 11 through 13. **That is why he is not ashamed to call them brothers, 12 saying, “I will tell of your name to my brothers; in the midst of the congregation I will sing your praise.” 13 And again, “I will put my trust in him.” And again, “Behold, I and the children God has given me.”** On earth, where sin affects our families and people in those families, we may not always be especially proud of our families. And in light of our sin, it would be perfectly understandable if God treated us like those family members we would rather avoid. Instead, we are told that Jesus has the opposite response. **He is NOT ASHAMED to call [us] brothers** [and sisters]. Jesus boasts about his relationship to us! This isn't a begrudging relationship forced by birth. This is a loving relationship based on God's choice to make us his children. **Ephesians 1:4-5 tells us this truth. 4 even as he chose us in him before the foundation of the world, that we should be holy and blameless before him. In love 5 he predestined us for adoption to himself as sons through Jesus Christ, according to the purpose of his will...** The fact that we are chosen by God to be his children is an

incredible blessing that shows his love for us. It's hard for me to imagine a parent who doesn't love their child. But for the parent who adopts a child, it's an even greater type of love to some degree. The adoptive parent didn't have to take on the responsibility of that child. The adoptive parent chose that particular child when they could have chosen others. That is the picture of God's love for us. If you have repented of your sin and trusted in Jesus Christ for salvation, then you have been chosen by God for adoption. He loved you when you were unlovely. Before you were sanctified, he chose you to be his son or daughter. He determined that Jesus's blood would cover your sin. Now Jesus proudly calls us his brothers and sisters, and invites us to join in the family celebration. We see that in the 3 quotes he uses in verses 12 and 13. The first is from Psalm 22:22. Psalm 22 is a prophetic Psalm about Jesus, and it begins by focusing on his death, as he calls out to God the Father for help. In verse 22, the help has been given, victory is accomplished. This clearly applies to the victory accomplished in the death and resurrection of Jesus over sin. But notice that Jesus is not alone in his praise of God's name. He brings his brothers with him in this celebration of praise to God for accomplishing salvation. We are included in his victory, which became our victory. Then he quotes Isaiah 8:17-18 **13 And again, "I will put my trust in him."** From verse 17... **And again, "Behold, I and the children God has given me..."** from verse 18. **Isaiah 8:17-18** reads, **17 I will wait for the Lord, who is hiding his face from the house of Jacob, and I will hope in him. 18 Behold, I and the children whom the Lord has given me are signs and portents in Israel from the Lord of hosts, who dwells on Mount Zion.** In the context of Isaiah, this is saying that Isaiah's children testify to the people of Israel that God's blessing will come to Israel. In Hebrews, the writer is using this to say that Jesus is trusting in God the Father in the same way Isaiah was. Even though Jesus faced the greatest trial of all, death, he knew that God would rescue him. Jesus triumphed over death and the grave! As the Son of God, he trusted in God the Father and received the victory. And it is through his work that we join in that victory celebration.

If we know Jesus Christ, we have a new family. We have new brothers and sisters, along with our eldest brother, Jesus Christ. In Jesus, those of us who were outside SOTO to God's family are brought inside UCHI to the family of God. Our family name should define who we are. We bear God's name. We represent Jesus Christ our brother, our Savior to the world. How well are we representing him to the world. Are we ashamed of that name? Or do we boldly tell others about our brother Jesus? He is not ashamed of us, are we ashamed of him? It is his work on the cross that saved us and adopted us into this new family that defines us. So, every week when we gather as the church, we gather as brothers and sisters in Christ who are joined together by the bonds of blood – his blood. We remember that shed blood through the Lord's Supper. I invite you to join us in this meal today if you are follower of Christ who has repented of sin and trusted Christ, and then been obedient in being baptized. While we welcome those who are not members of YIBC to participate, this meal connects us with the local Body of Christ where we should be participating as members. For parents, the best way to show children the importance of this meal is to not allow them to participate when they are not ready. After I pray the Deacons will distribute the bread and cup from the 4 corners of the sanctuary and then we will eat and drink the bread and cup together. Let's pray.